

添付資料の目次

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. その他の情報	4
(1) 重要な子会社の異動の概要	4
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要	4
(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書	7
【第2四半期連結累計期間】	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 継続企業の前提に関する注記	10
(5) セグメント情報等	10
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	11

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新興国の経済成長や政府による経済対策の効果などを背景に、企業収益は最悪期を脱しつつあるものの、個人消費の不振や厳しい雇用情勢が継続したことに加え、円高や株価の低迷などの不安材料から先行き不透明な状況が続きました。

住宅市場におきましては、住宅ローン減税拡充の効果や住宅エコポイント制度の導入などを背景に持ち直しの傾向にありますが、新設住宅着工戸数は、依然として低水準で推移しており、本格的な回復には程遠い状況でした。また、非住宅市場におきましても、一部に緩やかな回復の兆しが見られたものの投資の冷え込みから総じて低調な状況で推移いたしました。

このような経営環境のなか、当社グループは、営業力強化による拡販に努めるとともに、ニーズにマッチした高意匠・高機能の商品開発に鋭意取り組んでまいりました。また、収益体質の一層の強化を図るため、生産効率の向上と経費削減を進めてまいりました。

このような結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高41,984百万円（前年同四半期比8.1%増）、営業利益4,038百万円（前年同四半期比21.1%増）、経常利益4,120百万円（前年同四半期比19.2%増）、四半期純利益2,356百万円（前年同四半期比19.3%増）となりました。

セグメントの業績を示すと次のとおりであります。なおセグメント間の内部売上は除いております。

なお、第1四半期連結会計期間より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」（企業会計基準第17号 平成21年3月27日）及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日）を適用しております。

これに伴い、従来の「その他セグメント」を「化成品セグメント」に含めて報告セグメントとしております。

前年同期比較にあたっては、前第2四半期連結累計期間を変更後の区分に遡及して行っております。

(化成品セグメント)

接着剤系商品は、自動車部材用途や太陽電池向けの接着剤が順調に売上げを伸ばすとともに非建設市場の新規分野へ展開を始めている接着剤も順調に販売を開始いたしました。

樹脂系商品は、公共投資の抑制により土木用樹脂は厳しい状況で推移しましたが、ベランダ防水用樹脂は、環境に配慮した新商品を発売するなど拡販に努めた結果、好調に推移いたしました。また、外装・内装仕上塗材「ジョリパット」は、スタンダードタイプを汚れに強いタイプ「ジョリパットアルファ」に進化させ市場投入するとともに改修市場へ新商品の積極的な展開を進めてまいりました。なお、化粧品・光拡散材用途向け有機微粒子及びその他化学品については、海外需要に支えられ堅調に推移しました。

このような結果、売上高は15,374百万円（前年同四半期比8.4%増）、営業利益（配賦不能営業費用控除前）は1,154百万円（前年同四半期比26.5%増）となりました。

(建装材セグメント)

建装材商品は、汎用性の高い単色メラミン化粧板を刷新した「カラーシステムフィット」や、指紋などの汚れが目立ちにくい特性をもつ高意匠メラミン化粧板「セルサス」がその特性や使いやすさなどが市場で評価され、回復の兆しが見え始めた店舗・商業施設を中心に売上げを伸ばすことができました。

また、メラミン化粧板・不燃化粧材・フィルムシート材等の柄連動システムの推進により販売の強化を図った結果、学校を中心とした公共施設市場においても売上げを伸ばすことができました。

このような結果、売上高は10,835百万円（前年同四半期比5.4%増）、営業利益（配賦不能営業費用控除前）は1,833百万円（前年同四半期比14.0%増）となりました。

(住器建材セグメント)

インテリア建材は、「マーレス クラスSシリーズ」がトレンド柄を生かした意匠が評価され売上げを伸ばすとともに、医療・福祉施設向けの機能引戸「UD（ユニバーサルデザイン）コンフォートシリーズ」も市場ニーズにマッチし引き続き好調に推移いたしました。

また、ポストフォーム加工商品は、機能性を備えたボウル付きカウンター「アイカスタイリッシュカウンター」の発売や、キッチン扉・システム収納扉向けに、新しい形状を提案するなど市場の開拓に努めましたが、とりわけ回復の遅い集合住宅市場の影響から低調に推移いたしました。なお、不燃化粧板「アイカセラー」は、キッチン・洗面などの住空間に加え、商業施設・教育施設への用途拡大に努めた結果、売上げを伸ばすことができました。

このような結果、売上高は12,847百万円（前年同四半期比5.2%増）、営業利益（配賦不能営業費用控除前）は1,705百万円（前年同四半期比0.5%増）となりました。

(電子セグメント)

電子材料は、アジア市場においてデジタルカメラや光学フィルム向けのハードコート樹脂およびタッチパネル・携帯電話端末向けの高機能フィルムの新商品の投入時期が遅延したことなどもあり苦戦を強いられました。

しかし、主力のプリント配線板は、医療機器・半導体関連などを中心とした電子業界の市況回復に加え、高速伝送・電磁波障害対策などの分野でユーザーニーズに合致したパターン設計が市場で高い評価を得て大きく売上げを伸ばすことができました。

このような結果、売上高は2,926百万円(前年同四半期比35.1%増)、営業利益(配賦不能営業費用控除前)は280百万円(前年同四半期比170.4%増)となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第2四半期連結会計期間末の総資産は前連結会計年度末に比べ448百万円(0.5%)増加し、89,969百万円となりました。主な資産の増減は「現金及び預金」が1,325百万円の増加及び「受取手形及び売掛金」が944百万円増加したこと、「商品及び製品」が210百万円の減少、「有形固定資産」が533百万円の減少、「無形固定資産」が269百万円の減少及び「投資その他の資産 其他」が705百万円減少したことなどによるものであります。負債は前連結会計年度末に比べ503百万円(2.4%)減少し、20,128百万円となりました。主な負債の増減は「短期借入金」が128百万円の減少、「未払法人税等」が808百万円の減少及び「長期借入金」が113百万円減少したこと、「支払手形及び買掛金」が566百万円増加したことなどによるものであります。純資産は、前連結会計年度末に比べ952百万円(1.4%)増加し、69,840百万円となりました。主な増減は「四半期純利益」が2,356百万円となったこと、剰余金の配当を実施したことによる978百万円の減少及び「其他有価証券評価差額金」が465百万円減少したことなどによるものであります。

これらの結果、自己資本比率は前連結会計年度末に比べ0.7ポイント増加し、76.9%となりました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

業績予想につきましては、当第2四半期連結累計期間の業績が当初予想を上回ったことから、平成22年4月30日に公表した平成23年3月期の業績予想を下記の通り修正いたします。

景気の先行きは不透明感を増しており、今後の景気の動向によって通期の業績見込みについては見直しが必要と判断した場合には速やかに開示致します。

平成23年3月期連結業績予想数値の修正(平成22年4月1日~平成23年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	86,000	8,000	8,200	4,800	73.56
今回発表予想(B)	87,000	8,300	8,500	4,950	75.86
増減額(B - A)	1,000	300	300	150	2.3
増減率(%)	1.2%	3.8%	3.7%	3.1%	3.1%
(ご参考)前期実績	80,984	7,436	7,644	4,452	69.25

2. その他の情報

(1) 重要な子会社の異動の概要

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

簡便な会計処理

1) たな卸資産の評価方法

たな卸資産の簿価切下げに関しては、収益性の低下が明らかなものについてのみ、正味売却価額を見積り、簿価切下げを行う方法によっております。

2) 経過勘定項目の算定方法

合理的な算定方法による概算額で計上する方法によっております。

四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理

該当事項はありません。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

(資産除去債務に関する会計基準の適用)

第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号平成20年3月31日)を適用しております。

これにより、営業利益、経常利益はそれぞれ4百万円減少し、税金等調整前四半期純利益は103百万円減少しております。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成22年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	27,054	25,729
受取手形及び売掛金	29,448	28,504
商品及び製品	3,424	3,635
仕掛品	272	256
原材料及び貯蔵品	1,429	1,445
その他	2,150	2,277
貸倒引当金	101	127
流動資産合計	63,677	61,720
固定資産		
有形固定資産	17,143	17,677
無形固定資産	1,052	1,322
投資その他の資産		
その他	8,410	9,116
貸倒引当金	315	315
投資その他の資産合計	8,095	8,801
固定資産合計	26,291	27,800
資産合計	89,969	89,521
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	13,201	12,635
短期借入金	378	507
未払法人税等	1,448	2,257
賞与引当金	1,083	1,124
その他	2,107	2,037
流動負債合計	18,220	18,562
固定負債		
長期借入金	819	933
退職給付引当金	336	337
その他	752	799
固定負債合計	1,908	2,070
負債合計	20,128	20,632

